

ちよつといし話

～ 朝に希望、夕べに感謝 ～

興隆を極めた佛教は明治になって廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）の名の下に弾圧を受けました。天皇＝神と言う事で神を残すも、結局神も第二次世界大戦の敗北に因って、国の宗教が無くなってしまったのです。明治天皇が佛教を捨てても、各家々には根深く佛の教が浸透しており、その結果、佛教の衰退は免れたのです。しかし時下り、今は多信仰故に無神論に成っている人や、訳の判らないまま新興宗教に入る人が多くなったと言えます。国の宗教は大切なものだと思います。故に、外国では度々宗教戦争が起こるのです。幸い日本は温厚な佛教信者が多いので、現在そういう意味では一見平和に過ごせています。5月7日の早朝、私は空海大師様から娑婆世界の大衆を導く先達として働いても良いという許可を頂いた夢を見ました。早速、その可否を判断する為に6日間、四国霊場を巡拝させて頂きました。弘法大師様は私に表現出来ない不思議をたくさん見せて下さいました。私は弘法大師様の意に従い、先達として大衆の爲に働かさせて頂ける事を心より感謝申し上げます。久しぶりに四国霊場を巡拝して驚きました。大勢の方が歩いて巡拝してみえ、特に若い方が目立ちました。信仰の衰弱した今にあって、青年達が仏教の教えに従い霊場を巡っている、その姿に感動を覚えました。ストレス解消の爲に人生の指針を探るも由、心身健康の爲に等々それぞれの目的があって巡ってみえます。大師の信仰が留まる事なく現在まで続いている、真に喜ばしい事です。各自に納得の行く結果を戴いているからでしょう。現世利益の頂ける弘法大師の信仰が深く現代社会

にも根ずいているのでしょう。各霊場にはそれぞれの歴史と共に特別の現世利益が生きずいています。例えて言いますと当山の油掛地藏様は商売繁盛、身体健康等、六道を守ってみえます。人間は強がりと言っても弱い者です。唯々一心におすがりするのでもいいでしょう。弘法大師は大日如来様を中心に考えてみえたと思います。信仰とは太陽の様に成らなくてははいけません。信心に因って徳積みがたくさん出ると太陽の様に、色々なものにエネルギーを与え事が出来るようになるのです。佛教では太陽を形成したのが大日如来様なのです。その働きが真言密教の大きな要素となっているのです。1300年の歴史をもつ華嚴宗の華嚴經によれば大日如来様は十方の諸佛を統括す、とあります。ちなみに東大寺の大仏は毘盧遮那佛＝大日如来様です。空海大師没後約300年に生まれた法然上人は比叡山にて25年間に渡り修行に修行を重ねられ、その結果として自力での往生極楽には限りがあり、不可能に近い事を悟られました。法然上人は、なんびとも死から逃れる事が出来ない点を重要視され、西方の極楽へ能力の無い我々を導く爲には阿弥陀様の本願である「一心専念弥陀名号……」におすがりする他力本願しか無い事を発見され称名念佛を推奨されました。私が巡拝して教えて頂けたのは自力と他力は車の両輪であり、朝に空海、そして夕べには法然を敬礼し、朝に希望、夕べには感謝することでした。無量寿經の中に和顔愛語とあります。皆様、今月は和顔愛語でいきましょう。

善入院油掛地藏尊